



Rotary Opens Opportunities

Rotary International District 2800

山形西ロータリークラブ会報

会長：佐藤 章夫 幹事：遠藤 正明

地区目標 「4つのテスト」を実践し ロータリーの価値をたかめよう。

クラブテーマ Let's Make The Best Better 前へ!

◆点鐘：市村 清勝 副会長

◆ロータリーソング：奉仕の理想

◆司会：早川 徹 S.A.A

◆会場：山形グランドホテル



Yamagata West Rotary

第2912回例会

令和3年6月14日(月)

会長あいさつ

市村 清勝 副会長



今日は佐藤章夫会長が所用で遅れる為、私が代理で会長挨拶をさせていただきます。

1カ月ほど前から佐藤章夫会長から「6月14日はお前が挨拶をするんだぞ」と、「副会長は必ず会長挨拶の練習をしなきゃいけないんだ」というふうに言われておりました。本来は私が挨拶しなくても大丈夫な状況なのですが、「せっかく考えてきたんだからちゃんと挨拶したほうがいいんじゃないか」という優しいお言葉をいただいていたので会長挨拶ということになります。本当にありがとうございます。心から感謝を申し上げます。

一昨日、私は初めて笹竹を採ってまいりました。笹竹を採るのは大変だと聞いていたので、あまり行きたくなかったのですが、友達から「ぜひ、お前も来い」というふうに言われて、笹竹を採ってまいりました。それで、顔も、手も足も、傷とあざだらけであります。だいたい15キロ～20キロくらいの笹竹を1人で採ってまいりまして、もう二度と来るかと思ったのですが、91歳になる母から、笹竹の炊き込みご飯、みそ汁、天ぷらを作ってもらいました。これがとてもおいしい。格別においしかったわけあります。これはやっぱり収穫の喜びということなんじゃないかな、自分で採った笹竹はおいしいということなんじゃないかなと思います。二度と来るかと思ったのですが、来年もまた行ってみようかなと今思っているところであります。

私は建築屋なものですから、建築の話をしていただきたいと思います。上棟式の話なのですが、最近上棟式をする人が少なくなってまいりました。30年くらい前までは家を建てて新築をする人にとっても、大工さんにとっても、上棟式というのは一大イベントでありました。棟上げが終わると、施主と棟梁と関係者の名前を書き込んだ棟札を小屋束に打ち込んで、そし

て棟に五色の旗を揚げました。その五色の旗を見て、近所の人たち、子どもたちは大勢集まってきて、特に子どもたちは5円玉とお餅を拾いたくてたくさん集まって、大賑わいでありました。

上棟式は大工さんがお施主様から接待をしていただき、これからもよろしくという儀式であります。そして近所の人や親戚の人たちから集ってもらって、もうすぐ見えなくなる、仕上がって見えなくなる構造材をチェックしていただく機会でもあります。柱の太さ、節の位置、梁の大きさ・掛け方、皆さんが見ることになります。このときよく見つかるのが、逆柱(さかばしら)というやつです。柱が逆さまに立っているという、これは縁起が悪いとされておりましたが、構造的にはまったく問題がないので、今はほとんど加工もプレカット、工場加工になっていますので問題にする人はいなくなってしまいました。でも、見る人を見るとすぐにわかります。棟梁の木材に対する見識とか愛情が問われるところではないかというふうに、私は思っています。

大工の棟梁は、酒席が1番上の床の間の座席に座って、宴会が始まってまもなく、ご祝儀をいただきます。ご祝儀をいただいた大工さんは、お礼に「所は高砂」と「四海波(しかいなみ)」の2つのお謡いを披露することになります。ですから、多少の上手下手がありますけれども、大工の棟梁はこの「所は高砂」「四海波」の2つだけは謡うことができるように練習をしています。

この上棟式というのも日本の文化であります。コロナ禍の中、近所の人や親戚の人が集まる儀式が少しずつ少なくなっていくこと、日本の文化が失われていくことは大変寂しいことでもあります。これからは少しずつそういう文化は守っていかなければいけないというふうに思っています。

以上で会長挨拶を終わります。

幹事報告

遠藤 正明 幹事

今日は1件でございますので、ちょっとお話をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3月に高速道路で車が壊れました。4月にはチェーンソーで3つの指を切りました。還暦の年だったので、5月に、結婚式を挙げた護国神社に行ってお祓いをしていただきました。もう大丈夫だろうと思ったところ、先週の日曜日に、左耳に虫がストンと入りました。寒河江まで運転をして行って、虫は死んでいるので虫を取ってもらって耳を掃除してもらいましたが、その日1日、三半規管がおかしく、顔は真っ青で頭がグラグラしていました。何を言いたいのかと言いますと、何が起るかわからないなと。

(笑)ほんとに今思っています。

今日、来る人全員から「もう少しだね」と言われました。油断をすると失敗するので、あと16日間、本気で頑張っていかなきゃいけないなと、気合を入れて頑張らねばと思っております。

●退会者の報告をさせていただきたいと思います。前回の第12回理事会でご承認をさせていただきました。長岡壽一会員、澤渡章会員、海和将浩会員の3名が6月30日付をもって退会となりますことをご報告させていただきます。

次年度幹事より報告

武田 岳彦 会員

- 本例会が終了後、次年度の理事会を開催いたしますので、該当者はお残りいただければと思います。
- 17日6時から当グランドホテルで合同委員会を開催いたします。ご案内は届いているかと思いますが、出欠の返事をまだ事務局になされていない方は本日中をお願いいたします。

ニコニコBOX

〈6月14日〉

鈴木謙司さん／池田めぐみさんをお迎えて
2度のオリンピック出場の池田さんを迎えてニコニコします。これからも山形県のスポーツの活性化のためにがんばってください。

武田元裕さん／池田めぐみ先生ようこそ
私、恥ずかしながら山東フェンシング部OBです。フェンシングゆかりの者としてニコニコします。キッズ達への指導、よろしく願います。

東海林健登さん／市村副会長の挨拶にニコニコ
素晴らしいスピーチに対しニコニコいたします。

ゲスト卓話



「聖火ランナーとして」

池田 めぐみ さん

東京オリンピック 聖火ランナー

皆さんこんにちは。この度この会にお招きいただき、本当にありがとうございます。なかなか最近はコロナの影響で、人前で話すという機会がなくなってしまったので、どうにもこうにも緊張はしているのですが、いろいろ試合に出てきて緊張する場面はありましたので、そういうスポーツを通して身に付けた根性というか気合いというか、本番に強いという力はぜひこの場面で発揮できればなんて思いながら皆さんにお話を、僭越ではございますがさせていただきますというふうに思います。

本日、「聖火ランナーとして」というテーマでお話させていただきます。私は、アテネと北京とオリンピックの大会に出場した経験もありますので、昨今、東京オリンピック・パラリンピックを開催できるのかということについて、私自身がどう考えているのかということも織り交ぜながら、皆さんとこの時間を過ごさせていただきたいなというふうに思います。

まず、聖火なんですけど、皆さん、今私が持っているこの聖火のトーチ、実はなんと、自分で買っています。びっくりですよ。「走った人、はいどうぞ」ってプレゼントされたわけではないんですね。誰がじゃあ買えるかということ、聖火ランナーを走った人が買う権利があるんです。

聖火リレーを走る約3～4カ月前ぐらいかと思うんですけども、東京オリ・パラの組織委員会の聖火ランナーの担当の人からメールが走る人たちに一斉に送信されました、「買いますか？買いませんか？」と。

皆さん、大体いくらぐらいの値段がすると想像されますか。実は7万円ぐらいします。なかなかですよ。しかし、私はオリンピックに出た経験があって、かつ聖火ランナーは自分で応募して走りたいというところで始まったものなので、やはり記念に残って形に残るものが自分の手元にあるっていうのはやはりいいなと思いましたので、家庭内でボランティアを募りまして、うちの父親、母親、「どうだい？どうだい？いるかい？」なんて言いながらようやく手に入れたものではあるんですけども、この手でその聖火、走ったあとにそのまま受け取って、そのまま箱に箱詰めされて、それで今日はここに持ってきたっていうような流れで今ここに、皆さんの目の前にあります。

裏話をさせてもらおうと、これ、大体1.2キロぐらいの重さがあります。中にガス管を入れて火を付けるっていう流れになるんですけども、皆さんは1.2キロ、余裕だと思いませんか。「まあ大丈夫だろう、1.2キロくらいか」っていうふうに思われるんですけど、私、当日、南陽市役所をスタートして大体200メートル走って、2分で終わったんですけど、その間、その2分ぐらい持つのは大丈夫だろうとお思いじゃないですか。ところが私、セレモニーに出なくてはいけなくてですね、点火式ですね、米沢市から車に乗ってランタンが運ばれてきたわけです。米沢でリレーした聖火の火はランタンで、車で運ばれて南陽市に来たんで

すけど、またランタンからこの聖火に引火するっていう時にセレモニーするんですけども、そのセレモニーの間中ずっと持ってなくちゃいけない。それで事前にその組織委員会の人たちからレクチャーを受けていて、「火が付いたら必ず顎よりも上にトーチを上げてください」って言われるんですね。それでだんだんだんだん重くなってきて「ああー」なんて言うと、隣にちゃんと黒子がいるんですよ。「上げてください」って。すいません、と思いながら上げて走って行きました。

実際に走り始めると手を持ち換えて、「ああ重い」なんて言いながら走っているんですけども、走るのが早すぎると黒子の人に注意されるんです。「早いですよ、もうちょっとゆっくり走ってください」なんて隣の人にさんざん言われながら、それでもやっぱり自分自身も興奮して走るので、どうしても早足になってしまうので、あっという間に走った時間は終わったな、なんて思いながら聖火リレーの時間を過ごしました。

そもそも私がなんで聖火ランナーに応募したのか、オリンピック・パラリンピックを目指したのか、ちょっと背景に触れてみると、実は1964年の前回の東京オリンピックの開催時に、私が聖火リレーを走りたい、オリンピックに出たいと思うきっかけがありました。それは、父親の影響です。

父親がすべての私の火付け役というか、重要なポジションにいつもいるんですけども、1964年、父は中学校2年生でした。その時に南陽市を走った聖火ランナーのサポートランナー、子どもたちが後ろを走ってくれたりとかするんですけども、その随走者としてうちの父が前回大会で走ったという経験があったんですね。

それで、幼い頃から父が「オリンピックの聖火ランナー、走ったんだよ」ということをポイントポイントで言うわけですよ。もともと陸上をやっていたのでオリンピックを見るのも好きで、1984年のロサンゼルスオリンピック大会をテレビで見た時に、「ああ、こういうのがオリンピックなんだ」と意識し始めたのが最初です。

1984年、私は5歳でした。それでそのロサンゼルスの開会式に、「ロケットマン」って皆さんわかりますか。そのロケットマンを開会式で見て、日本の選手団が入場行進をして、弓矢で聖火を灯してっていうところを見た時に大変感動しまして、5歳だった私、何をしたかと言うと、テレビに入ろうとしたんですね。「なんかすごいことがテレビの中で起こってる。オリンピックっていうものがあるんだ。よし、テレビに入ったら私はオリンピックに出られるんじゃないか」と思って、後ろのコンセントというコンセント、昔のブラウン管テレビの中に入ろうとして親に引き止められて、「いや、オリンピックはテレビに入るんじゃないよ」なんて言われながらテレビから離された記憶が今でも残っていて、そこから私の心にオリンピックに行きたい、関わりたいという種が植えられて、その後陸上を始めて「ジャッキー・ジョイナー・カーシーみたいに



なりたい」、「カール・ルイスみたいに100メートルがなばって走りたい」みたいな形で陸上を始めたんですが、やはり陸上っていうのはなかなか能力の差っていうのが出てきてしまう競技なので、その当時、中学校3年生で私は陸上をやめて「ああ、これ、陸上じゃオリンピックに行けない」と思ってシューズを脱いだんですが、その時決定的に私に陸上を諦めさせる原因を作ったあるお方がいらっしゃるんですね。その方というのが、私の学年1つ下の池田久美子さんという人です。

池田久美子といえば北京オリンピックで走り幅跳びで出た選手。私の1コ下だったので、天童の今のNDソフトのあそこのグラウンドで合宿をよくやってきていて、その時に彼女と走って、あの尋常じゃない速さ、どんだけ一所懸命走っても追いつけないあの距離っていうものを肌で感じた時に、「ああ、私はオリンピックに陸上で行くっていうのは無理なのかもしれない」というふうに思って、そこで陸上は辞めてしまいました。

でもオリンピックに行きたい気持ちはあるので、何かしら違った、選手じゃなくても関わったら、なんて思いながら高校に進学をしたんですが、その時たまたまフェンシングの顧問の先生が私が中学校で陸上をやったっていうことを知っていて声を掛けてくれたところからフェンシングの人生というものが始まりました。今で言う種目転向ですね。これがダメだったらこれみたいな簡単な話ではないんですけども、私の目的はオリンピックに出ること、そこで舞台に立ちたい、テレビに入ろうと思った、あの開会式に出たいと思ったことが多分1番のモチベーションで、そこから練習を重ねて、高校1年生からフェンシングを始めて10年、25歳の時にアテネのオリンピックに出て、開会式で行進をして、テレビに実際に入って5歳の頃に夢見た「テレビの中に入る」という夢を自分の中で叶えることができました。

やはりそこで見た聖火ランナーの姿であったり、そこで灯された火っていうのがやはり私の中でもずっと今でも灯し続ける私の生きる上でのモチベーションみたいなものになっていて、2021年になりましたけれども、東京大会でも私の心の中に小さい時から灯っている聖火の火っていうのをつないでいきたいなというふうに思って今回聖火ランナーに応募して、実際に走ることができました。

ところがですね、やっぱり今のご時世、叩かれるんですよ。聖火ランナー走ってる場合じゃないだろ。オリンピック・パラリンピックやってる場合じゃないだろ。私も友達からも知ってる人からも「辞退しろ」と言われたこともありました。「それで意思表示をして、そういうのを中止につなげていったほうがいいんじゃないか」なんて声も聞かれました。

実際、本当に迷いながら本当に走っていいのかということとオリンピックを開催していいのか、ということは、ずっと私はこの延期になってから1年間考え続けてきています。なかなかその答えというのは見つからないまま、自分の心の中では走っていいか走って悪いか、中止というのを自分の中で行動として示していくべきかなんていうふうに悩みながら走ったわけではあるんですけども、走ったあとに、スーッと思ったことがあるんですけども、「開催する・しない」を私決める権利全然ないじゃないですか。私が「じゃあ、やめましょう」と言ってやめるものではないので、自分で決められないものに対して時間を費やす、考えるというのはもういいかなというふうに思って、じゃあ

私が考えるべきことは何かと言ったら、東京オリンピックを目指してきているアスリート、これからスポーツを通して自分を成長させてがんばりたいという人たちに向けて私が今まで経験したことをメッセージとして伝えていくことが私の役割なんじゃないかな、とふと思ひまして、この先大会開催がどうなるかというのはわからないですけども、少なくともオリンピック・パラリンピックを開催するというか目指しているという経験というものは否定されるものではないですし、私がスポーツを通して目指してがんばってきた時間というものは悪いことをしたわけではないので、そこに関しては胸を張って生きていこうかなというふうな決意を新たにして走り終えたなというような気持ちです。

「アスリートってかわいそうだよ」と思っている方、「そんだけ努力してきたんだから、その舞台がなくなるのはね、かわいそうだよ」と思っている方いると思います。私はこの場でそれだけは否定させてもらいたくないと思います。

アスリートはいろんなことを乗り越えてきてるんです。ずっと勝てないことであったりとか、ケガをしてしまったりとか、思い通りにならないことをずっと受け止めてそれを力に変えるスイッチを育ててきた人たちなので、今ここでオリンピック・パラリンピックがありません、大会はできませんとなったとしても、それを乗り越える力があるのが本当のアスリートだと私は思うんです。決してかわいそうな存在じゃないと私は思うので、そこだけは否定してもらいながら皆さんとオリンピック・パラリンピックが今後どうなるかというのを見届けながらこれから活動していきたいというふうに思います。

最後に、オリンピック・パラリンピックというと、皆さん大会に目を向けがちかと思います。あの選手は活躍する、日本は何個メダル獲るのかななんていうことに注目されがちだと思うんですが、2013年、ブエノスアイレスでジャック・ロゲが「TOKYO」と出してから約8年ぐらの期間に、大会を開催するだけではなくて日本は実は世界中にスポーツを通していろんな貢献をしてきたということをご理解いただきたいというふうに思います。

カンボジアなど、まだまだ発展途上でスポーツをすることもままならないところに、日本の歴史的にやってきている運動会を届けたりとか、あとは学びの場であったり、スポーツのする機会というものを世界の約200カ国以上の1,000万人に届けてきた活動というのが今までこの8年間に詰まっています。ですので、大会を開催するかどうかということのほかにも、オリンピック・パラリンピックというものは開催するに当たって費やしてきた時間、そこに掛けてきた思いというものは決して無駄ではないし、無駄にしないようにする必要がありますので、私はその役割をこれからの未来で担っていきたいというふうに思います。

ということで、聖火ランナーの話から自分の思いの丈を皆さんに話したという時間になりましたが、こちらに聖火のトーチを置いておきますので、もし触りたいという方

がいらっしゃったらぜひお手に取ってもらって、やってもらって、3分くらいやるとプルプルしていいトレーニングにはなるかと思ひますけれども、何かの話のネタにでもなればなというふうに思ひながら、これで私の話を終わらせていただきたいと思ひます。ご清聴ありがとうございました。



聖火のトーチを持たせていただきました！

三密コーナー（最終回）

三密回避対策の決定版か？ハイブリット例会が始まって2ヶ月になる。すでに数回利用している浦口会員に感想をうかがった。



浦口 太門 会員

Zoom例会参加者

コロナ禍の折、リモート例会の多様性、大いに意義のある事と思ひます。健康に留意し、会員相互で労り、相手を想う気持ちが現在必要とされてるロータリー会員の姿だと思ひます。

ロータリーソング「それでこそロータリー」の歌詞を思ひ出し、気配りしながらこのコロナ禍を乗り切らなければなりません。

パソコンを使ってZoomを立ち上げアプリを操作する事、高齢世代の日常作業の中で甚だ苦手な分野になります。

本当に面倒くさいんです！キャッシュレスの方がポイントが貯まります。個人情報がかんたん流出していきます。非常に怖いのですが、世間が、生活環境が推奨しております。操作をミスればパニックです。

でも必ず1回は賢くなります。

自宅でパンツ一丁で試みた結果、全部映ってしまった「商品会議」。会員の皆さん！ロータリークラブ例会、Zoom参加どんどん挑戦してみてください。

但し、自分の姿を確認して音声を「ミュート」にして参加する事をお勧めします。

本日出席 (6 / 14)	会員総数	出席会員数
	101名	55名+ズーム参加2名